

大学教育・学生支援機構

生産労働者人口減少に対応する外国人材活用のあり方を考えるプロジェクト

担当学部等 大学教育・学生支援機構

担当学科等 教育基盤センター(多文化共生教育・研究プロジェクト推進室)

担当者 結城 恵 教授

◎事業概要

少子高齢化により深刻化する生産年齢人口の減少により、わが国の基幹産業を支えるミドルスキル(高卒レベルの技能者)不足が予測される。しかし、その実態把握や打開のための方策の検討はほとんど行われていないのが現状である。そこで、本事業では、群馬県において深刻なミドルスキル不足が予測される業種のひとつとして、製造業やサービス産業を支える物流業に焦点をあて、ミドルスキルの補完人材として県内在住外国人を想定した。

事業内容としては、群馬県内の在日外国人の求職ニーズの把握と外国人材に協力を得て、包装業務現場におけるインターンシップ・アクションリサーチを実施した。方法としてはエスノグラフィを活用し、参与観察に基づき、外国人材を受け入れるからこそ起きやすい誤解・葛藤・ミス抽出をした。その上で、これらを回避するための環境づくりを、業界関係者を対象に「外国人材受入に必要な環境整備のあり方意見交換会」を開催し、その知見を実践に還元できるようにした。

◎実施事業等

本事業費の目的を達成するためにⅠ～Ⅲの3つの事業を実施した。

Ⅰ. 仮説構築

(1)群馬県内の在日外国人の給食ニーズのためのヒアリング調査

(2)外国人材を活用している企業関係者へのヒアリング調査

Ⅱ. アクション・リサーチによる仮説検証

不足するミドルスキル(高卒レベルの技能者)の補完人材として県内在住外国人を想定している業界のうち、物流業A社において、包装業務のインターンシップを実施した。作業の正確さと早さが、①視覚化される環境要因と、視覚化されない環境要因、②言語的・非言語的コミュニケーションとどのような関係があるのかを解析した。インターンシップには日本人学生及びベトナム人留学生各1名が同時参加し、その共通性と差異も分析した。

Ⅲ. アクション・リサーチの知見に基づく包装・安全衛生等業務担当者研修会の検討

上記Ⅱで抽出された環境整備及びコミュニケーションに必要な配慮を整理した。

◎期待される成果

本事業がきっかけとなり、生産年齢人口の現象によるミドルスキル人材の不足への対応策が関係業界での議論が進み、事態に備える方策が具体的に検討されることが期待される。

また、同様の課題を抱える職場において、外国人材を受け入れる際に必要な環境整備やコミュニケーションの具体的な方策のプロトタイプを、本事業の実施の結果、提示できたことにより、類似する業界での適用・検証が可能になった。この領域での調査研究の必要性が関係機関に認識されることにより、本事業の成果が、市町村、県等の施策立案に具体的な方策につながることを期待される。